

中等部

2024 年度の様子

中等部部長 山縣 基

2024 年度は、本校が共生共学へと移行した初年度であり、それまで女子部と男子部に分かれて生活していた生徒・教職員にとって、初めての「中等部」としての生活が始まった年であった。そして、これまでの女子部・男子部のそれぞれの文化を尊重しながら、中等部としての新しい在り方を模索し続けた 1 年であった。

1. はじめに

中等部の第 1 期生徒委員会の委員長は、2024 年 2 月の就任にあたり以下の言葉を述べた。「新しい文化をつくる。そのためには、客観的に物事を見て、結論を急がず、対話をする必要がある。男子部生は男子部の、女子部生は女子部の文化を残したいと考えている。議論ではなく対話で違いを認め合い、どうすればよいのかを考えていくことが大切」この言葉は、これからの中等部の在り方を示す重要な指針となり、その姿勢を大切にしながら、様々な学校制度を生徒と教職員とで検討していった。

2. 日常生活の制度について

(1)本鈴(朝の全校の挨拶)の方法

第 1 期の委員長・副委員長で相談し、男子部で行っていた方法を基に、中等部では芝生の周囲にクラスごとに並び、板木を叩いて朝の挨拶を行うことにした。板木の叩き方を知らない生徒も多く見られたため、係の生徒が自主的に立ち上がり、板木を叩く当番クラスの日番に教える様子が見られた。

(2)礼拝の座席

毎朝の礼拝は記念ホールで行い、ベンチをコの字に並べ、学年ごとに座る方式に第 1 期委員会が定めた。学年内での座席は自由としたが、高学年ほど男女別に座り、低学年ほど男女が混ざって座る傾向が見られた。

(3)昼食の座席

第 1 期の記念ホールの委員が中心となり、昼食時の席割りを検討した。様々な人と交流する機会を持つために、

学年と男女を混ぜた 12 人のテーブルを基本単位とし、その中での座り方は自由とした。結果として、学年や性別ごとに自然に分かれて座る場合や混ざって座る場合があり、生徒たちは互いに過ごしやすい形で昼食の時間を楽しんでいた。

(4)食事のマナー

昼食時に、ナイフを使わずに肉料理を食べることや、ひじについて食事する等、食事のマナーの課題が特に男子生徒に見られた。そこで食の係が中心となり、マナーを強制するのではなく、「皆が気持ちよく食事できること」を目標に、全体への呼びかけや、注意点の掲示を行った。

その結果、次第に改善が見られ、不快を感じる生徒は減少した。ただし、継続的な取り組みが必要な課題である。

(5)生徒委員会の構成

以下の構成で運営を行った。運用の中で修正点が見つかり、委員会で話し合って役割を変更した委員もあった。

役職	学年	性別の指定	人数
委員長	3 年	男女 1 名ずつ	2 名
副委員長	3 年	男女 1 名ずつ	2 名
記念ホール主任	3 年	なし	2 名
記念ホール補佐	2 年	なし	2 名
食器食事会計	3 年	なし	1 名
学校主任	3 年	なし	2 名
学校道具	2 年	なし	1 名
学校補佐	1 年※	なし	1 名

鍵	2 年	なし	1 名
集めもの	2 年	なし	1 名
集めもの補佐	1 年※	なし	1 名
農芸	1 年※	なし	1 名
寮道具主任	2 年	男子(寮生)	1 名
寮食事補佐	3 年	男子(寮生)	1 名
寮道具補佐	1 年※	男子(寮生)	1 名

※1 年生の委員は第 3 期から担当し、第 2 期までは 2 年生が担当。

(6)教室配置

教室配置については、生徒で話し合う機会が設けられなかったため、教職員で検討した。当初は異なる学年を隣接させる案もあったが、共学初年度で、初めて同学年がクラスで分かれる混乱を考慮し、同学年で教室を並べることにした。具体的には、以下の配置とした。

- ・校舎 1 階: 中部部 1 年(3 教室)
- ・校舎 2 階: 中部部 3 年(3 教室)
- ・ラーニングコモンズ: 中部部 2 年(2 教室)

(7)クラス担任

共学前は 1 クラスに 2～3 名の担任がついていたが、共学後は同学年に複数クラスが編成されたため、担任制について教職員で検討を重ねた。

チーム担任制や複数担任制などの意見もあった中で、最終的には、「各クラス 1 名の担任を置き、それ以外の複数の教員が学年全体に関わり、担任も他クラスに流動的に関わる」という方式とした。これにより、生徒・保護者・教員にとって、かわりやすさが確保されると同時に、教員の流動性も保たれるようになった。

(8)デバイスの管理

当初は、各教室に設置された番号鍵付きロッカーでタブレットや携帯電話を個人で管理していたが、生徒の中に不適切な使用が散見されたため、クラスの状況に応じて朝のホームルームで回収し、職員室で保管する方式に変更した。また、長期休暇前にはデバイスやインターネット利用のマナー・危険性についてのレクチャーを行った。

3. 1 年間を終えての生徒の振り返り

中部部としての初めての年度が終わる 3 月に中部部の全生徒で実施した振り返り会議では、以下のような意見が出された。

【良かったこと】

- ・ 中部部全体が元気で明るく、過ごしやすかった
- ・ 食事の時間が楽しく、交流の場となった
- ・ 男女間の壁が次第に薄れ、コミュニケーションが取りやすくなった
- ・ 入学前に不安を抱いていたが、生活を通して互いの良さに気づけた
- ・ 上下級生との交流が増え、仲を深めることができた
- ・ 思いやりのある人が多く、安心して過ごせた
- ・ 授業や対話を通じて多様な考えに触れることができた
- ・ 文化の違いに戸惑いながらも 1 年間をやり遂げられた
- ・ 登山や体操会などの行事で協力し合い、充実した時間を過ごせた
- ・ 委員を中心に「より良くしよう」とする姿勢が見られた
- ・ 課題が生じた際に、話し合いによって解決を図ることができた

【課題点】

- ・ 時間のそろいが悪い
- ・ ルールが曖昧などところがある
- ・ 一部の人が当番の仕事を多くやっている
- ・ 当番の仕事をしない人がいる
- ・ 昼食の報告時間中に騒がしい
- ・ 高等部とのかかわりが少なくなった
- ・ 中部部キャンパスが汚れている
- ・ 少し男女の壁があった

4. まとめ

2024 年度は、それまで女子部・男子部に分かれて生活していた生徒と、新たに入学した生徒、そして教職員が共に新しい学校を築き上げていく、誰にとっても初めての一年となった。委員をはじめとする生徒たちが主体的に学校生活をつくり上げていく姿は随所で見られ、その中で大きな成長が感じられた。

さらに、生徒の振り返りからは成果とともに課題も明らかとなり、今後の中部部の方向性を考えるうえで貴重な機会となった。これからも、生徒と教職員が協働しながら、中部部の新たな文化を築いていきたい。